

手をたずさえて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年3月23日(火)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

進級おめでとうございます 『一秒にも満たない言葉たち』

本日、修了式において、代表生徒に修了証書を手渡しました。修了証書は1年生、2年生がそれぞれの学年で学ぶべきことを学び終えましたという証明書です。進級おめでとうございます。

3月12日の卒業式は感動的な式となりました。主役の卒業生の式における態度や動き、そして式歌も立派でした。吉田颯希さんの『別れのことば』は、数名の生徒の想いを引用しながら、平易な言葉で中学校生活を振り返り、特にコロナ渦での学校生活への想い、さらに保護者の方々や教職員に対する感謝の気持ちが込められたすばらしいメッセージでした。また、在校生代表としてただ一人参加した伊藤壺太郎君の『送ることば』も卒業生への感謝の気持ちがしっかりと表現されてい



部活動を思うように締めくくれなかった卒業生への想いを込めて今年度も昇降口に飾られた石井先生の“黒板アート”

「はじめまして」

この一秒ほどの短い言葉に、一生のときめきを感じることもある。

「ありがとう」

この一秒ほどの短い言葉に、人のやさしさを知ることがある。

「がんばって」

この一秒ほどの短い言葉で、勇気がよみがえってくることもある。

「おめでとう」

この一秒ほどの短い言葉で、幸せにあふれることがある。

「ごめんなさい」

この一秒ほどの短い言葉に、人の弱さを見ることがある。

「さようなら」

この一秒ほどの短い言葉が、一生の別れになるときがある。

一秒に喜び、一秒に泣く。
一生懸命、一秒。
人は生きる。

ました。伊野PTA会長にもご臨席を賜り、温かい祝辞をいただくことができました。1・2年生は式には参加できなくても、事前の式の準備や清掃活動によく動いてくれました。8日に実施されたお別れの会も含め、一人一人が2つの卒業式の意味をしっかりと捉え、行動に移すことができました。在校生のみんなにも心から感謝します。式には参加しなくても、卒業という中学校生活の最大かつ最終の目標に対し、1年後、2年後の自分の姿とオーバーラップさせてイメージをふくらませてほしいと思います。

さて、今日は『一秒の言葉』という詩を紹介します。1985年(昭和60年)の大晦日、民放の「ゆく年くる年」という番組で、たった1回60秒だけ放送された“幻のCM”です。



卒業式の様子

商品名はいっさい出されず、学校の校舎を背景にコピーライターの小泉吉宏さんがつくったこの詩が流れるイメージCMでした。放送後には、その短い言葉に心打たれた人達の反響が大きくなり、2008年（平成20年）6月10日の「時の記念日」に、ハイビジョン映像でのリメイクが再登場しました。そして、この年からこの詩は小学校の道徳の副読本の資料として使われるようになりました。

日常何気なく発する、『一秒にも満たない短い言葉』。でも、人はその言葉に心を感じ、気持ちを込めて相手に伝えていきます。これは、気持ちを込めないと相手には伝わらない、ということの意味しています。「言葉」＝「気持ち」や「想い」と言えます。きみたちは、今まで生きてきた中で、これらの『一秒にも満たない短い言葉』をどのくらい伝え、そして周りの人とつながることができたのでしょうか。そして、これから何百回、何千回と言葉にするであろう、この『一秒にも満たない短い言葉』たち。『一秒の言葉』に気持ちを込めること、そして『一秒の言葉』に込められた気持ちや想い…ここで立ち止まって考えてみましょう。きっと何かに気づくはずです。



最後になりますが、きみたちの2021年度（令和3年度）の1年間をより良きものにするためには、まずは明日からの春休みの過ごし方にかかっていると思います。

「何を、何のために、いつ、どのくらい、どのように取り組む」といった具体的な目標を設定し、一日一日を大切に過ごしてください。そして、いつも言っていますが、命の大切さを自覚し、悪の誘惑にも決して負けることなく、自分の箍（たが）を緩めることなく、事故『0』の春休みを実現していきましょう。

～ 修了式 校長式辞より ～

保護者の皆様へ 今年度のご協力・ご支援に感謝申し上げます

お子様のご進級おめでとうございます。

3月12日に行われました「第60回卒業証書授与式」は、規模縮小ではありましたが、感動的な式となりました。

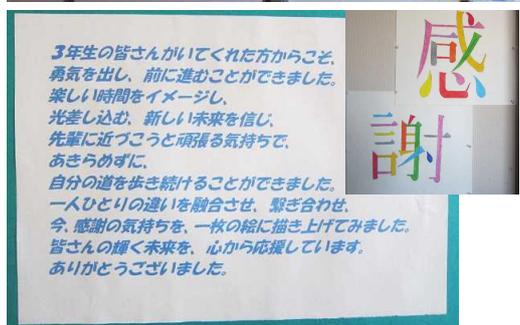
115名の卒業生たちは、まわりの人たちへの感謝の気持ちをもって学舎を旅立ち、それぞれに力強い一歩を踏み出してくれました。式には参加できなかった1・2年生は、もう一つの卒業式と位置付けた「お別れ会」や卒業式の準備等よく動いてくれました。それぞれ進級する1・2年生に頼もしさを感じました。

今後、『小原田PRIDE ～自信と誇り～』をスローガンとして学校経営にあたってまいります。まっすぐな気持ちで一生懸命頑張る生徒達を精一杯応援し続けてまいります。

今年度の教育活動は、1・2年生にとっても、様々な面で新型コロナウイルスの影響を受けることになりましたが、感染症対策へのご理解とご協力、部活動やPTA活動等でのご支援に心より感謝申し上げます。



そして、次年度におきましても、新型コロナウイルス感染拡大防止の対応はしばらく続くことが予想されますが、どうか変わらぬご支援をお願いいたします。最後になりますが、来年度1年間をより良いものにするために、この春休みの過ごし方がとても重要になります。感染症対策の徹底・継続、交通事故等の事故防止はもちろん、特に交友関係の把握、スマホ・携帯・オンラインゲームの使用状況の把握等にも努めていただくようお願いいたします。我々教職員も襟を正しながら、今後も「ならぬものはならぬ」という姿勢を失うことなく指導・支援にあたってまいります。ご家庭でのご指導・ご支援も重ねてお願いいたします。



“卒業生へ” 美術部の生徒達が作成した作品